城南学園小学校・幼稚園　通信

共に育つ

2024 年 12 月　太田友子

一年を振り返って…

早くも師走、小学校玄関に大きなクリスマスツリーとリースが飾られました。

今年は電飾も加わり、一段と華やかになりました。

さて、小学校では学期末の個人懇談会が終わり、幼稚園でももうすぐ始めます。

懇談会では、学校園生活の現状をお知らせするとともに、より良い成長のための次なる課題について提供し、課題解決のためにご家庭で、学校園でどのようにしていくかを共有する場でもあります。

また、学校園で大切にしていることにもご理解を深めていただき、よりよい子育てにつながる関係づくりもねらいとしています。

さて、今年も保護者会をはじめ保護者の皆さまには惜しみなくご支援をいただき、教職員一同安心して子どもたちと向き合うことができました。心から感謝申し上げたいと思います。

佳き新年をお迎えください！

「私は一人じゃない」

私は5年生になって、仲の良い友達から、仲間外れにされました。初めて仲間外れにされたので、授業をしていても、そのことが頭からはなれません。そして、私はずっとそのことを考えているのがいやだったので、勇気を出して、その友達に、なんで仲間外れにしたのかを聞きました。すると、みんな私と目を合わさずだまっていたので、もう一度、なんで？と聞くと一人が私にあやまってきました。私はほっとしましたが、体育で着替えに行くときにも一緒に行ってくれず、私は半泣きになりながら一人で着替えようとしていました。

すると、あまり一緒に遊ばないけど、朝いつも一緒に学校に行っている友達が、「どうしたの？」と声をかけてくれました。私はその友達に仲間外れにされたことを話すと、「いっしょに行こう。」と言ってくれました。

私はその時、言葉で表せないくらい、とっても嬉しかったです。私はその友達みたいに優しくなりたいと思いました。

家に帰ってお母さんにそのことを全部話すと、・・・

【　　♡　　】

その次の日からは、みんな一緒に遊んでくれました。少し気まずかったけど、私は気持ちをゼロにもどして、みんなと一緒に遊びました。私は、やっぱり、一人より、みんなと一緒にいる方が楽しいなあと改めて思いました。

私はニュースで、いじめをされて自殺をしたというのを見ました。いじめのない社会にするためには、思いやりが大事だと思いました。日本には、いじめに苦しんでいる人がたくさんいると思います。

いじめをされた人は絶対にいじめをされたことを忘れません。いじめは絶対にしてはいけません。いじめをされている人がいたら、絶対に声をかけてあげてほしいし、私も声をかけたいと思います。

左の作文は、堺市「はとぶえ」に掲載された小学５年生が書いた作文です。

この作文からは、「仲間外れ」にされた哀しみ、苦しみ、くやしさが伝わってきます。でもそのときに救ってくれたのが友達の「一緒に行こう。」の一言だったのです。

そして、そのことを全部お母さんに話したとき、皆さんならどんなことをお子さんに語りますか。

「いやな経験をしたけど、やさしい友達がいることもわかったからよかったね。このことは一生忘れないと思うよ。」と言ってくれ、どんなことがあっても、ずっと私の味方だと言ってくれたので、とても嬉しかったです。

本当にこのことは一生忘れないと思います。逆にいい経験になったと思います。

さぞ、お母さんも哀しくてつらかったことでしょうが、「いい勉強をしたね。」と力強く励まし、どんなことがあってもずっと味方だよと勇気づけておられます。すばらしい愛情の伝え方です。

主人公の「私は」それを支えに、次の日「気持ちをゼロ」にして学校生活に戻っていくことができました。一生忘れられない経験ですが、本当の優しさ、母の愛情、みんなと過ごすことの楽しさ、思いやりの大切さ、そして、いじめは絶対にしてはならないということなどたくさんのことを学びました。

子ども社会は、大人社会の縮図と言われます。

私たちは子どもたちに「人として絶対にしてはならないこと」をどれほど伝えきれているでしょうか。「大人の言うとおりには育たない」「大人のしているとおりに育つ」とも言われます。

本校園では、ご家庭と「共に」育てると同時に、私たち大人も「共に」に育つよう、「学び重ね」ができる教育環境をめざしています。

これからもよろしくお願いいたします。